

祈りの友へ

教会の主、イエス・キリストの御名を讃美します。

今年度も当校のためお祈りとご支援をくださったことに、心より感謝申し上げます。当校の取り組む C-BTE についてご理解いただくため、先回に続きくなぜ C-BTE なのかを掲載いたします。

＜なぜ C-BTE なのか＞ その 5(最終回) 「C-BTE パラダイム:インフラ整備」

C-BTE パラダイムの概要について紹介してきました。そのために備えなければならないいくつかのプロジェクトがあります。この国において C-BTE パラダイムが健全に広がり、健全な教会の建て上げ、そして世界宣教を実現する教会が建て上げられていくために築かなければならない C-BTE パラダイムの基盤となる下部構造を堅固にする必要があります。最終回として C-BTE パラダイム:インフラ整備を紹介します。そして、一教会でも多くの教会が使命を共有し、祈りの手を上げ、力になっていただければと願っています。

C-BTE パラダイム:インフラ整備(揺るぎない C-BTE 下部構造)

1. リソースセンター教会(複数)

すでに当初から取り組まれたいくつかの教会があります。C-BTE パラダイムを実証するリソースセンター教会として認証、委任を明確にする前に「3.11 大震災」が発生、そして支援活動に取り組む中で正式認証、委任できないまま今日に至り、今、取り組むべき課題です。

2. 教会所属の聖書学者、神学者

「キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです(エペソ 4:11)。「ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ(1コリント 12:8)」とあります。C-BTE パラダイムが聖書神学の成果でありますので、日本の文化の中で確立していくために教会に与えられた賜物としての教師、とりわけ日本人の聖書学者、神学者が必要不可欠です。

3. C-BTE 教会会議(エルサレム会議)

現在は年に二回、春と秋のセミナーが開催されていますが、どちらかと言えば C-BTE パラダイムを紹介することが主になっています。同時に実際に取り組んでいく中での課題について建設的、かつ創造的議論が必要です。パラダイムの検証、また継承のために必要な会議です。こうした積み重ねが日本に健全な教会を建て上げていくことになると期待します。

4. 教会連合型ネットワーク:C-BTE ジャパンネットワーク

本校が C-BTE パラダイムへの転換を決断し、取り組みはじめました。目的は奥義としての教会を建て上げること、その各個教会の主体性を確立してこそ C-BTE パラダイムの明確なゴールです。C-BTE パラダイムに取り組む諸教会が自主的にネットワークを確立し、真の意味での連合型ネットワークが実現するなら、国内外において主の宣教大命令を実現していく、なくてはならない基盤になると思います。

5. 教会主体の出版事業

C-BTE パラダイムに基づくクリスチャン建て上げ、さらに次世代指導者の建て上げのための教材リソースは BILD の協力を得た翻訳テキストです。C-BTE パラダイムを解した日本人の指導者によるテキスト作成は急務です。同時に真の意味での聖書神学に基づく文献、あるいは C-BTE パラダイムから発想を飛ばせる有益な文献の翻訳出版も必要です。とりわけ聖書時代、使徒後時代の研究成果の文献も日本語で読めたら大きな力になるはずで

6. 草の根的救援事業:福音に基づく「良いわざ」としての地域貢献

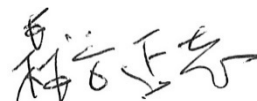
C-BTE パラダイムの注目すべき視点、実際に聖書の意図そのものですが、主の宣教大命令は単純に伝道プログラムの実行ではなく、先に救われたクリスチャンたちが教会内外に通じる生き方を確立してこそ宣教の実を結んでいくものだということです。クリスチャン、その家族、そして神の家族である教会が地域に貢献できる存在として建て上げられることです。福音に基づく「良いわざ」としての生き方の実証があってこそ主の宣教大命令は着実に広がり、実を結んでいくということです。

7. 支援と宣教の統合(国内外)

C-BTE パラダイムに基づいて建て上げられた諸教会が、文字通り助けを必要としている人々への実ある支援と福音宣教は一体のものとして進められることです。今日のような格差社会の中で、C-BTE パラダイムに基づいて建て上げられた教会こそが愛と支援の業を実現できる存在です。福音の確かさを実証する存在としての教会ならではの取り組みです。

2019年3月29日

C-BTE Japan リソースセンター
仙台バプテスト神学校



校長 森谷正志

森谷正志先生校長 退職のお知らせ

いよいよ桜の便りが聞かれる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

皆様から、本校のために、祈り、ご協力を頂いていること、有難うございます。主の導きにより、仙台バプテスト神学校は1963年4月に始められ、56年間働きを進めさせていただいて参りました。これは、皆様のご支援の賜物です。心から感謝いたしております。

永年、本校校長として労して来られた森谷正志先生は、この春3月末を持って校長職を退職されます。それに伴い、次期校長が決まる間は中野正義理事長が校長代行を兼務することを、先日の理事会において決定いたしました。

森谷先生は、今まで進めて来られた C-BTE の働きの中の、C-BTE に取り組んでいる諸教会のネットワークを確かなものとするに取り組んでくださることになりました。C-BTE の働きが更に理解され、取り組む諸教会が起こされ、日本の宣教に用いられますようお願いいただければ幸いです。

そして、仙台バプテスト神学校は、C-BTE のリソースセンターとしての働きをさらに進めて参る所存です。これからもさらに、皆様のお祈りとご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2019年3月

仙台バプテスト神学校
理事長 中野正義
理事 一同